

かき  
笠さして 杜もりに分け入り 椎茸しいたけの

かさ  
めぐ  
重なる愛み 焼ききて香ばし

令和三年三月十二日

大中臣正比呂



杜の恵みを和田酒盛の盃で一杯飲もう。貴女の顔はよく分かんないけど、闇夜も嬉しき思い差したよう